

無言歌      フッセン

ジョッキ2杯のビールを飲み干して君は  
「東京弁ってなんだか気取っている」と、ふいに  
何かを思い切った様に、僕に問いかける

\*

駆け抜ける      澄みきった空気の中  
弾む息と輪舞<sup>ロンド</sup>      春の微かな香りの中  
この静かな残雪の中にも小さな営み

ワイングラスを傾けて見つめれば  
バラ色に揺れる中にそんな風景  
うっとりとその中に僕は身を浸す

\*

「東京弁ってなんだか気取っている」と、ふいに  
僕に問いかける君は、古都奈良の香りで  
僕をふいに、別の情緒へと連れ戻す

2つの空気を内と外に感じながら  
僕は君の横顔を見ながら場違いなことを想う  
紺絨<sup>みやこ</sup>の君と都を歩いてみたいものだ

(1984.3.25)